

会 議 録

第 2 0 回定例会

開会 平成 3 0 年 3 月 2 2 日

教育委員会会議録

1 開 会 平成30年3月22日 午前10時

2 閉 会 平成30年3月22日 午後零時5分

3 教育員会出席者

教育長	美馬 持仁
委員	松重 和美
委員	辻 貴博
委員	藤本 宗子
委員	小林 信行
委員	河口 雅子

4 教育長及び委員以外の出席者

副 教 育 長	勢井 研
教 育 次 長	森本 俊明
教 育 次 長	栗洲 敬司
施 設 整 備 課 長	椎野 洋三
教 育 創 生 長	長町 哲治
教 職 員 課 長	儀宝 修
学 校 教 育 課 長	後藤 浩代
人権教育課いじめ問題等対策室長	前田 茂
体育学校安全課長	林 日出夫
教 育 文 化 課 長	臼杵 一浩
総合教育センター所長	岩崎 洋
教 育 政 策 課 長	小西 哲也
教 育 政 策 課 副 課 長	倉橋 伸寿

[開 会]

教育長 定例会を開会する旨を告げる。

[会議録の承認]

教育長 配付されている会議録を承認して差し支えないかを各委員に諮る。

各委員 異議なし。

教育長 会議録を承認する旨を告げる。

[教育長報告]

副教育長 2月定例県議会における質疑応答の概要について報告する。

[議 事]

教育長 議案第62号、議案第63号、議案第64号、議案第65号、議案第67号を非公開として差し支えないかを各委員に諮る。

各委員 異議なし。

教育長 そのように取り計らうこととし、議事に入ることを告げる。

[議 事]

《報告事項5 徳島県教育の情報化推進指針について》

教育長 報告を求める。

総合教育センター所長 内容等を説明する。

〈質 疑〉

松重委員：本県の統合型校務支援システムの導入状況はどのような状況か。

総合教育センター所長：統合型校務支援システムについては、県立学校においては整備を計画的に進めて運用しているが、市町村においては、整備が進んでいる市町村と整備が進んでいない市町村があるのが現状である。今後も市町村も含めて、統合型校務支援システムの導入を推進していきたいと考えている。

河口委員：電子黒板の整備率が、本県は全国6位であるが、それでも整備率としては低い状況であると思うが、どのような状況か。

総合教育センター所長：電子黒板については、県においても今年度より実証校5校を選定し、すべての普通教室に電子黒板を設置し、タブレットと連動させた授業を実施しているところである。今後においても、各学校の普通教室に電子黒板を設置し、ICTを活用した授業が実践できるように推進していきたいと考えている。

藤本委員：教職員研修についても充実していただきたいと思うが、どのような状況か。

総合教育センター所長：教職員研修についても、今後充実を図っていく予定である。

藤本委員：ビッグデータとは何か。

総合教育センター所長：ビッグデータとは、e-learningなどで生徒の学習データなどを収集し、その収集したデータを活用して、個々の生徒に適した指導を行うためのものである。本県においても、実証事業でビッグデータに関する研究を進めていきたいと考えている。

《協議事項1 徳島県教育振興計画（第3期）の策定について》

教育長 説明を求める。

教育創生課長 内容等を説明する。

〈質 疑〉

松重委員：今回、各施策の工程表及び数値目標が盛り込まれ、実質的な計画として完成したと思われる。今後、各施策の進捗状況等を誰が検証するのか、教えていただきたい。また、数値目標については、高く設定することにより、その実施にあたって学校現場に無理が生じるようではいけない。教育において何が大切であるのかを見失うことなく、数値目標は設定されるべきであると考えているが、所見を伺いたい。

教育創生課長：毎年度、施策や事業の検証と進捗状況の自己評価を行うとともに、県教育行政点検・評価委員会を開催し、外部学識経験者等の知見を活用した進行管理を実施する。この点検・評価の結果、及び教育を取り巻く環境の変化に応じて、計画の改善・見直しを図っていく。また、成果指標については、目指すべき目標として数値を高く掲げた事例もある。今後、その達成状況を見極めながら、計画の改善・見直しを行う

際に、数値目標についても検討して参りたい。

松重委員：計画の進行管理にあたっては、P D C Aサイクルによる評価手法を活用し進めていただきたい。

教育長：数値目標の設定をはじめ、計画の効果的な推進にあたっては、学校や家庭、関係機関等と連携を図りながら進めて参る所存である。

河口委員：新しく策定される本計画を学校へ浸透させる方策として、研修等を予定しているのか。

教育創生課長：本計画については、製本するとともに概要版を作成の上、各学校へ送付し、校長を中心として、施策の推進に向けて計画の理解を深めていただく予定である。また、総合教育センター等で実施される各種教員研修の機会を捉え、本計画の学校への浸透を図っていきたいと考えている。

河口委員：管理職の姿勢によって、本計画の学校への浸透度合が異なることも考えられることから、教育委員会事務局として積極的な周知・広報に努めていただきたい。

教育長：教育政策課内に教育広報主幹という役職があり、過去2年間は、主に「徳島教育大綱」を学校現場に浸透させるよう努めてきたところである。次年度以降は、この「徳島県教育振興計画（第3期）」について、数値目標だけでなく、各施策の意図も含めて、教員の理解を得られるよう周知・広報に努めて参りたい。

教育長 協議事項1を議案第68号として付議してよいかを諮る。

各委員 異議なし。

教育長 議案第68号を原案どおり決定してよいかを諮る。

各委員 異議なし。

教育長 議案第68号を原案どおり決定する旨を告げる。

《協議事項2 平成31年度徳島県公立学校教員採用候補者選考審査要綱について》

教育長 説明を求める。

教職員課長 内容等を説明する。

〈質 疑〉

教育長：基本的には受審者が多く募れるように、多少手厚くといった方向での改訂で

ある。

教職員課長：要件等を緩和して受けやすくしている。

松重委員：要綱はこれでいいと思うが、教員に内定されてからの辞退者は増えているのか。

教職員課長：今年度の辞退者については、小学校で8名、中学校で2名、高等学校・特別支援学校はいなかった。年によるが、今回は多かった。

松重委員：それでも数%だが、北海道庁では約60%も辞退者が出た。教員はそれだけ志望が高い。教員の年齢構成を考慮して、これからの5年後、10年後の大きな方針は決まっているのか。

教職員課長：他県の現職教員を対象とした特別選考④を実施しており、30歳代について、1次審査を免除し、年齢構成の平準化を図っている。

松重委員：家族とともに移住してくれれば、人口増にもつながる。多面的に教員採用を考えなければならない。

教育長：今後10年あたりの、児童生徒数や退職者数を見越して採用計画を立てている。

教職員課長：退職者数を見越して、中長期的に見て、採用者数を決定している。2年後に退職者がピークを迎える。それに向けて徐々に採用者数を増やしている。数年後には定年延長もあり得る。

教育長：定年延長はまだ、はっきりと決まっていないが、導入した場合、導入しなかった場合、様々なシミュレーションをしながら、今考えているところである。できるだけアンテナを高くして、しっかり情報収集をお願いしたい。教員採用については、県によっては非常に厳しいところがあり、先日もテレビでは、「仁義なき戦い」といった報道があった。今のところ、徳島県では一定の競争率を維持しながら行えている。

河口委員：県によっては、優秀な学生を確保するために大学推薦を行っている県もある。

教育長：いろんな方面から、可能性、手段を考えていってほしい。根本的には、教育を志す子どもが減ってきているのではないか。

松重委員：減ってきている。採用数が減るのではないかとか、仕事が大変だとか、いじめ問題などの不安材料がある。

河口委員：いろいろな情報が出ており、学生が不安に思っている。

教育長：働き方改革も進めていきながら、教育の魅力を発信していかなければと思う。教職員課が先頭に立ってよろしくお願いしたい。

教育長 協議事項2を議案第69号として付議してよいかを諮る。

各委員 異議なし。

教育長 議案第69号を原案どおり決定してよいかを諮る。
各委員 異議なし。
教育長 議案第69号を原案どおり決定する旨を告げる。

《報告事項1 徳島県立学校施設長寿命化計画の策定について》

教育長 報告を求める。
施設整備課長 内容等を報告する。

〈質 疑〉

藤本委員：4点伺いたい。1点目、南海トラフ巨大地震への対応はどうなっているのか。2点目、教職員の働き方改革の面から、職場環境を整備するのは大切であり、職員室や校長室もきれいにするのは大事なことである。また、リフォームには意外と費用がかかると聞いているがどうなのか。3点目、教員の働きやすい環境整備のため保育所併設を計画できないか。4点目、プールは計画に入っているのか。

施設整備課長：1点目について、県立学校の耐震化は新野高校1校を残して他はできており、津波等についてはこれから必要な対策をとっていく。2点目について、長寿命化改修の内外装のリニューアル時に職員室・校長室もきれいにしていく。改修の費用は新築の6割程度を見込んでいます。3点目について、社会情勢等により教員のための保育所が必要であれば検討していく。4点目について、校舎・体育館等の建物を対象とし、プールは計画に入っていない。

小林委員：保育所の併設は面白い。

教育長：県立学校の近くに小中学校や幼稚園、保育所等がある場合が多い。保育所は市町村の管轄で難しいが、人事異動時考慮している。今後、そういった視点も必要である。

辻委員：施設整備の予算は毎年どのくらいか。

施設整備課長：実際の費用については詳細な検討が必要である。試算では、改築の場合では40年で約2千億円が必要となるが、長寿命化により約1,600億円になり、2割程度の削減ができると見込んでいる。予算に反映させる計画は来年度行う。

辻委員：予算獲得を是非とも頑張ってもらいたい。

教育長：まずはざっくりした試算ということ。県立学校は同じような時期に建設され

ているが、一度に多くの施設整備は財政が破綻するため、平準化が必要である。

松重委員：学校は公的な施設であり、デザイン性や色も配慮してもらいたい。地域の重要な施設でもあるため、地元企業からのドネーションなどが可能か。また、地域の要望等の受け皿はあるのか。

施設整備課長：地域の要望や社会的要請への対応などについて、必要に応じて計画を見直す。

藤本委員：先日、那賀高校で水不足の問題があったが、蓄えておくことはできないのか。

副教育長：那賀町の方で改善策を取る必要がある。

施設整備課長：学校で水を少しは蓄えられるが、一週間分を確保しておくのは無理である。

教育長：ドネーションやクラウドファンディングなど、資金調達の方法は今後考えていかないといけない。

松重委員：廃校利用など全部つぶすのではなく地域の活性化という意味で「民泊」ではなく「校泊」といったものも考えないと行き詰まる。

河口委員：3点意見等述べさせていただく。1点目、20年40年までで区切りがあってはならない。点検を丁寧にやっていき、緊急を要するものは適宜整備していくべきである。2点目、危険性があるのは優先順位を上げる。3点目、例えば県産木材を安く活用するなど、コストについて活用できるものは活用する。

施設整備課長：1点目について、点検は法的なものや日常点検がある。また、状態を把握し、必要に応じて20年サイクルの途中でも改修していく。2点目について、状況によっては新たに建替も検討する。3点目について、引き続きいろいろな工夫によりコストを削減していく。

教育長：今回、大きな方針ということで、今後どこから直していくのか、個々についてはこれから計画を進めていく。

《報告事項2 小学校英語デジタルコンテンツについて》

教育長 報告を求める。

学校教育課長 内容等を報告する。

〈質 疑〉

藤本委員：関係機関に配布とあるがどこに配布するのか。

学校教育課長：各小学校2部、各中学校1部、各市町村教育委員会1部を配布する。

河口委員：教職を目指す学生たちにも見せたい。

教育長：徳島をしっかりとアピールできるようなマインド面を育てたい。

松重委員：あわっ子文化大使で行っているような内容を英文にしたらどうか、伝統的な内容だけでなく、マチアソビのような内容も加えたらどうか。

学校教育課長：高校生ジュニア観光ガイドなどでは、アニメも含めて徳島の魅力を発信している。

松重委員：徳島をアピールして英語で紹介できる高校生にバッチをあげるなど、モチベーションをあげる方法を考えたらよい。

藤本委員：ALTや外国の方にも徳島を紹介していただいたらよいと思う。先日、ALTのミュージカルを見たが、素晴らしかった。ボランティアで行っているようだが、支援はないのか。

教育長：ALTのミュージカルは24年の伝統があり、支援はない。あわ検定などのノウハウもいただき、あわっ子文化大使、ジュニア観光ガイドと繋がっていくようにしたい。

《報告事項3 平成29年度英語能力判定テスト結果について》

教育長 報告を求める。

学校教育課長 内容等を報告する。

〈質 疑〉

小林委員：生徒全員が対象なのか。

学校教育課長：はい、全生徒が対象になっている。

小林委員：全生徒の受験結果が42%とは、最近の高校生はすごいんですね。

教育長：テスト結果を受けて授業改善に繋げることが大切だと考えている。大学入試でも外部検定試験が導入されるので、意識付けしていく必要がある。

松重委員：平成33年から始まりますね。

教育長：新高校1年生からとなっている。

松重委員：2級や準1級の結果はどうなっているのか。

学校教育課長：準2級レベルが30%、2級レベルが12%、準1級は48名という結果である。

松重委員：特に英語教育を強化している学校はどこか。

学校教育課長：徳島北高校と、Callシステムを導入している城ノ内高校の2校となっている。徳島北高校は1級合格者を複数出しており、城ノ内高校も今年度1級合格者が出た。

教育長：3級と準2級の間に大きな壁がある。対策を行うことも大切。生徒に成功体験を与え、モチベーションを高めたい。

《報告事項4 「徳島トップスポーツ校育成事業」評価委員会の報告について》

教育長 報告を求める。

体育学校安全課長 内容等を報告する。

〈質 疑〉

特になし

《議案第66号 文化財の指定について》

教育長 説明を求める。

教育文化課長 内容等を説明する。

〈質 疑〉

松重委員：古文書を読める人をどう確保するかが課題である。また、保存だけでなくデジタル処理等を行って見やすくし、全国へまた研究者に提供できるようにするなど、次のステップを考えて欲しい。阿波藍の注染だが、唯一であればこそ、これをどう繋げて行くかが大切で、ビデオなどの映像化は考えているのか。

教育文化課長：まだそこまでは考えれていない。調査の過程で撮った映像を審議の際に流し、審議の参考にしてきた。そういうものを上手く処理をし、活用をすることは可能だと思う。

松重委員：阿波藍は伝統的なものであるが、断片的なものになっている。こういったものを映像等を使って体系化し、伝統文化を繋げて行って欲しい。

教育文化課長：現在、文化財保護法が保護・保存中心だったものを観光面で活用していこうと文化財保護法の改正が議論されている。県指定の文化財も地域が自主的な計画を立てて、国に認められれば、国の補助制度も活用

できるようになる。また、体系的に活用を考えていけるように、県が県内の文化財の活用のために大綱を作っていくことになっている。それに基づいて市町村は、地域の文化財活用計画を作るようになっている。その点も踏まえて文化財の活用を考えていこうと思っている。

松重委員：藍師も高齢になってきている。伝統文化を繋ぐということを考えていただきたい。

教育長：古文書については、県立文書館で古文書を読む講座が行われている。参加したことがあるが、参加者は高齢の方が多く、後継者として若い方の養成が大切と思う。

副教育長：文化の森では、2020年に向けて、古文書も含めてデジタルアーカイブ化していくことが考えられている。

教育長：無形文化財についての映像化もできればと思っている。

松重委員：最新のデジタル技術を利用しての、文化財のあり方を考えていって欲しい。

教育文化課長：埋蔵文化財センターでは、保存と今後の活用ということで、木簡や銅鐸を4K映像で撮影したものを上映している。

藤本委員：映像で伝えられない技・精神といった部分もあるかと思うが、古庄さんの注染の技術の後継者はいるのか。

教育文化課長：娘さんが工場で手伝っている。

藤本委員：長年苦勞して身につけた技術を守りたいものであり、後継者も育てたいものでもある。技術が映像等で流れることが、技術の漏洩になるのではないかという心配がある。

教育長：観光と伝承とは違う視点で考えもらえればと思う。

教育長 議案第66号を原案どおり決定してよいかを諮る。

各委員 異議なし。

教育長 議案第66号を原案どおり決定する旨を告げる。

[非公開]

《議案第67号 徳島県銃砲刀剣類登録審査委員の任命について》

《議案第63号 平成29年度徳島県藍青賞（特例対象期間）の受賞者について》

《議案第64号 平成30年度使用高等学校用教科用図書採択について（追加）》

《議案第65号 徳島県いじめ問題等対策審議会委員の任命について》

《議案第62号 人事異動（事務局等課長級以上の行政職員の異動）について》

教育長 追加案件が1件あることを告げ、この案件を非公開として差し支えないかを各委員に諮る。

各委員 異議なし。

教育長 そのように取り計らうこととし、議事に入ることを告げる。

《協議事項3 職員の処分について》

[閉 会]

教育長 本日の議事が全て終了したので閉会する旨を告げる。

閉 会 午後零時5分